

指導者の手引き

平成25年9月

調布市少年野球連盟

はじめに

◆「スポーツ」とは

スポーツは、「人間が運動を自ら楽しみとして求めることによって成立してきた人類共通の文化」であり、障がいの有無や年齢、男女の違いを超えて、ともに喜び、感動を共有し、絆を深めることを可能にします。

さらに、子どもたちが成長していく過程で、他者への思いやり、共に協力し合う気持ち、誰にでも公平に接し、約束を守ることを尊ぶ心の成長も促します。

また、これからのスポーツには、公正で福祉豊かな地域社会、環境と共生したライフスタイルが実現する社会、平和と友好に満ちた社会の形成に大きく寄与することが期待されています。

このようにスポーツは、人間の成長に大きく影響するのみならず、望ましい社会の構築にも貢献する力を持っています。したがってスポーツの指導には責任が伴っており、ボランティア指導者であっても、その責任の大きさに変わりはありません。

そして、そのような責任を伴った指導が、指導対象者の成長や喜びになったとき、指導者にとっても大きな喜びとなることでしょう。まさに夢のある、やりがいに満ちた営みと言えます。

調布市少年野球連盟は、「安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートする」するため、日頃児童を指導する指導者としての望ましい考え方や行動を手引きとして示すこととしました。

この「指導者の手引き」が、指導者をはじめ保護者等多くの方々に理解され、活動の後押しとなり、より良い学童野球の発展につながることを期待しています。

1. 安全で、正しく、楽しいスポーツ活動の場を確保するために

スポーツの主役はあくまでもプレイヤーです。このことは、スポーツを指導する際のすべての基本となります。

スポーツ指導者が「安全で、正しく、楽しい」スポーツ活動の場を確保するためには、次のような姿勢や考え方が必要となります。

(1) スポーツに対して情熱を持ち、常にプレイヤーを最優先し、何事にも前向きに取り組む。すべてのプレイヤーに常に公平な態度で接し、また活動に参加したくなるような雰囲気を作る

(2) すべてのプレイヤーの個性や長所を見つけ、伸ばす。一方的、強制的な指導にならないよう、コミュニケーションスキルを高め、活動のねらいや内容をプレイヤーと共有する

(3) 発育発達段階や技能レベルに即して指導の内容と方法を工夫する

(4) プレイヤーの健康状態に注意をはらい、ケガや病気を起こさないよう配慮する

(4) 天候や活動場所の整備状況、道具・用具の手入れや施設の破損確認などに配慮する

2. 指導者とプレイヤーの望ましい関係づくりのために

学童野球の主役は選手ですが、指導者が指導的立場にいることによって、選手に対して上位の権力を持つこととなります。こうした関係を指導者自身が自覚していることはとても大切です。

相手が小学生であったり、競技レベルが高くなったり、あるいは指導者が過去に高い競技成績や指導実績を残していれば、その傾向はさらに強くなり、同時に指導者に対する選手の依存度も高くなります。

指導者が個々の選手を自立した個人として考え、権利や尊厳や人格を尊重した指導を行い、その結果、選手が指導者に対して信頼を寄せ、尊敬の気持ちを持つような相互尊敬の関係にあることが望まれます。

3. フェアプレーの実践

スポーツの意義と価値を表現するため、そして、指導者と選手の望ましい関係を構築するための有効な行動と考え方として、フェアプレーの実践があります。

フェアプレーには二つの側面があり、それは「行動としてのフェアプレー」と「フェアプレー精神」です。「行動としてのフェアプレー」とは、ルールを守り公正に振る舞うということに留まらず、他者（や審判）を尊重し、仲間を信じ、支える方々に感謝し、全力を尽くしてプレーすることであると考えます。

そして「フェアプレー精神」とは、自分の心に問いかけた時、恥ずかしくない判断ができる心のあり方ということができます。

どのような場合であれ、スポーツにはフェアな行動と精神が求められます。選手に対して大きな影響を及ぼす指導者であるからこそ、フェアな精神をもち、フェアな言動に徹するべきでしょう。そうした言動に基づいて指導するからこそ、選手はフェアプレーを身につけることができるのです。

◆「フェアプレイ7カ条」

スポーツにおいてだけでなく、普段の生活でも自らの指針となる「フェアプレイ7カ条」を浸透させていきます。

- ① 約束を守ろう
- ② 感謝しよう
- ③ 全力を尽くそう
- ④ 挑戦しよう
- ⑤ 仲間を信じよう
- ⑥ 思いやりを持とう
- ⑦ たのしもう

4. スポーツと社会の結びつき

私たちの社会において、スポーツに対する注目は年々高まっています。その中でフェアに行動しフェアな精神を身につけることはスポーツの場だけに留まらず、社会的にも価値があることと期待されています。

社会において認められているスポーツの価値を守り高めていくのは、スポーツに携わっている私たち自身です。特にプレーヤーに対して、あるいは社会に対して影響力を持つスポーツ指導者の言動には、これまで以上に高い倫理性が求められているのです。

他方で、現代社会は急激に変化しています。人々の権利意識やプライバシー意識は高まり、多様な価値観が認められるようになってきました。このような社会の変化は、スポーツを取り巻く環境にも大きく影響を及ぼしており、スポーツ指導のあり方についても、その変化に対応していくことが求められています。

したがって、指導者は現代社会の変化を踏まえ、プレーヤーや現代社会に受け入れられる有効な指導方法を模索し続ける必要があります。

こうした心得に沿ってプレーできるようサポートすることが大切です。
このような役割を果たすために、指導者は以下のことを心得ておかなければ

なりません。

① スポーツ指導者の心得

スポーツの大きな魅力のひとつとして競争的特性があります。したがって、指導者が勝利を優先したくなるのは当然のことかもしれません。しかし、プレーヤーが自発的に、フェアプレーや相互尊重の精神に基づいてプレーしているからこそ、人々はスポーツにおける勝利に価値を見出しているのだと言えます。プレーヤーの自発的な行動を促すためには以下のことを常に心がける必要があります。

- スポーツ活動においてはプレーヤーが主役であり、指導者の役割はプレーヤーの活動のサポート役であることを認識する
- プレーヤーを自立した個人として考え、プレーヤーが主体的に判断し行動できるように促す。◦プレーヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接する。◦プレーヤーとの信頼関係を築きつつも、過度の主従関係や親密な関係はさけ、適切な距離を保つよう心がける。
- 指導者自らの言動だけでなく、プレーヤー間やOB・OG、保護者など、指導するスポーツ活動のあらゆる場面に注意を払う。

② 指導者の持つ影響力を自覚しましょう

- ・指導者は選手に対して権力を持っていることを自覚する。
- ・指導者による反倫理的な言動の多くは、指導者のもつ権力を背景に生じることを自覚する
- ・指導者による反倫理的言動は、プレーヤーの人権やスポーツを行う権利を侵害することを自覚する

③ 反倫理的言動に適切に対処しましょう

指導者は、指導に関する知識や技術だけでなく、倫理に関する情報の収集に努め、反倫理的言動とは何かについての理解を深める必要があります。これらのことを自覚したうえで、以下のことについて強い意志を持ち対処することが求められます。

あらゆる暴力やハラスメントをしない、許さない。年齢、性別、国籍、などの違いを理由とする、いかなる差別的な言動もしない、許さない。

反倫理的言動を黙認や隠ぺいせず、速やかに適切に対処する指導者の態度や言動は、社会から注目されています。常に学び続け、自ら成長・発展するとともに、社会的期待に応えられる振る舞いや服装を心がけましょう。

以上の心得を遵守することが指導者の責務であることを理解し、行動することが大切です。

5. PATROL しよう

選手が自立（自律）し、自ら進んで取り組めるよう“PATROL”を心がけましよう

Process : 「結果ではなく、経過を重視しましょう」

結果を評価するのではなく、経過を重視しましょう。どんな結果であろうとも、結果に至るまでの努力や行動があったはずで。いい結果が出た時も悪い結果が出た時も、選手と一緒に原因を考えてみましょう。

Acknowledgement : 「承認しましょう」

選手の意思を尊重し、その行動や言動を承認することが重要です。自らの存在を認められることが、選手にとって大きな励みになるのです。

Together : 「一緒に楽しみ、一緒に考えましょう」

何よりも指導者自身が楽しくなければ、選手も楽しくありません。選手とともにスポーツを一緒に楽しみましょう。

Respect : 「尊敬しましょう、尊重しましょう」

年齢、性別に関係なく、すべての人を尊敬する気持ちを持ちましょう。10人いれば10人の個性が存在します。選手の個性を尊重しましょう。

Observation : 「よく観察しましょう」

選手をよく観察しましょう。体調は万全か、悩み事はないだろうか。見ていなければわかりません。「見られている」ことで選手は安心するのです。

Listening : 「話をよく聴きましょう」

自分が話すより、選手の話聴く時間を多く取るように心がけましょう。指導者が「なってほしい選手」ではなく、選手自身が「なりたい」自分を意識し、気づかせるためには、選手自身にたくさん話す機会を作ってあげましょう。

6. 反倫理的言動とは

(1) 反倫理的言動

スポーツ指導者は、自ら関わるスポーツ活動のあらゆる場面における倫理確立のためのキーパーソンとしての役割を期待されています。しかし、これまでに指導者が倫理的な問題を起こしてきたことも事実です。指導者による反倫理的言動の内容及び範囲としては、次のようなものがあげられます。

反人道的言動

(2) 身体的・精神的暴力及び言葉の暴力

身体的暴力は殴る、蹴る、平手打ち、バットや竹刀でたたく、物を投げつけるなどの行為、および直接身体に触れないとしても同様の行為により威圧する

ことを指し、刑法によって定められています。

プレイヤーの人格や尊厳を否定するような発言は言葉の暴力になります。たとえプレイヤーを励ましたり動機づけるための声かけであっても、指導者は一般社会で受け入れられるような言葉遣いをするよう心がけましょう。

(3) 不適切な指導

罰として正座をさせたり、不適切な負荷を設定したトレーニングをさせる、ケガをしているにも関わらずプレーを強要するなど、スポーツ医・科学的根拠を欠く指導を指します。また、脱衣や断髪が強要などの個人の尊厳を傷つける行為、あるいは正当な理由なくプレーさせないなど、スポーツを行う権利を奪う行為も含まれます。

7. 反倫理的言動がもたらす影響

未成年のプレイヤーは人格形成期にあり、指導者への依存度も高くなります。そのため、未成年者に対する反倫理的言動の悪影響はさらに深刻なものになります。特に子どもたちを指導対象とする場合は、心身の発育発達や技能レベルなどを十分考慮した指導をするとともに、子どもたちの手本となるような言動を心がけることが求められます。

◆最後に、調布市少年野球連盟はここに具体的行動指針を宣言する

スポーツ活動の場で起きた数々の痛ましい事件を今一度想起するとともに、スポーツ界における暴力行為を許さない強固な意志を示し、あらゆる暴力行為の根絶を通して、スポーツをあまねく人々に共有される文化として発展させていくことをここに誓う。

私たちは、スポーツを愛する者として、何ごとにも全力で取り組み、精神・肉体ともに成長させることに努めます。

そして、フェアプレイを通じて思いやり、誇り、努力、勇気を最大限に発揮し、その力を人に、地域に、社会のために生かしていきます。

そのための具体的な行動として「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を実践していくことを宣言します。

<本指導者編の作成にあたり以下の文献から引用・参考としました>

●スポーツ指導者のための倫理ガイドライン

発行日 2013年7月24日 初版

発行 公益財団法人日本体育協会

●スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議

(タスクホース)報告書 2013年7月2日

●ジュニア野球 監督・コーチ入門 江藤 省三 池田書店